

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3970500272
法人名	株式会社 エム・シー・エス四国
事業所名	愛の家グループホーム土佐蓮池
訪問調査日	平成 19 年 12 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 7 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3970500272
法人名	株式会社 エム・シー・エス四国
事業所名	愛の家グループホーム土佐蓮池
所在地 (電話番号)	土佐市蓮池1227-2 (電話)088-828-5070

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成 19年12月18日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(19年12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 5日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	21人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.8人

(2)建物概要

建物形態	併設/■単独	■新築/改築
建物構造	鉄骨造り ALCタイル張り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金	有(円)	■無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	■有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	25名	男性	5名	女性	20名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 86.2歳	最低	71歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊与木クリニック、井上病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関には季節の花が活けられ、可愛い犬の置物や小物が迎えてくれる。グループホーム全体に清潔感があり、利用者の居室はゆったりと居心地が良く、共用スペースは馴染みの品を身近に置き、生活しやすい配慮がされている。紙パンツから布パンツに代わった利用者が数名おり、職員がケアに前向きに取り組む姿が窺われる。要介護度4以上の利用者が30%を占めているように介護度の高い利用者も多く、車椅子使用の利用者も8人いるが、グループホームで生活が継続できる体制づくりがされている。全国に90箇所余りのグループホームを展開する会社の事業所の1つであり、利用料は高いが、利用者のニーズに対応できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「家庭的な生活空間作り」や「身体機能が維持できるような生活空間作り」など、ケアサービスの提供面での改善課題は計画を立て順次取り組んでいるが、「鍵をかけない工夫」についてはまだ改善されていないので、今後改善に向けた取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義やねらいについては職員も含めて理解しているが、自己評価の作成は3人のユニットリーダーで行っており、全職員は参加していない。自己評価は職員が共通認識を持ち、ケアの振り返りと見直しをする良い機会であるので、全職員で取り組むことを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しているが、利用者は参加していない。会議は事業所の現状報告や認知症の理解についての学びの場にはなっているが、双方向的なものとはなっていない。会議で評価や事業所の現状等を話し合い、課題の改善に取り組むことを期待したい。評価の報告等は口頭のみで文書化していないので、記録されることを望む。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>各ユニットごとに利用者の様子を知らせる手紙を発行し、事業所としては月1回家族に新聞を配布している。また、心身の状況の変化や受診状況はその都度必ず家族に連絡している。家族から苦情や意見を聞くことを目的に、ユニットごとに3ヶ月に1回家族会を開催し、その他にスタッフルームで個別に意見も聞いている。苦情は出ていないが要望は寄せられている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会は組織されていないが、公園の清掃や草取りに参加し、小学校の運動会に出かけ、地域の消防団に寄付をするなど地域との関わりを持つように努めている。今年は参加できなかった祭りに次回参加を予定しており、毎日の散歩や買物を通じて、地域との優良な関係を作っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 会社全体の理念があり、H19年10月からグループホームの各ユニットでも目標(理念)を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 事業所の理念に地域との関わりが明記されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 リーダー会や月1回のミーティングで理念について話し合い、達成度もチェックしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 その人らしさ、好むこと、したいことを大切に、サービスを提供している。利用者に対しては年配者として尊敬の念をもって接し、言葉遣いにも気をつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 町内会は組織されていない。地域の消防団に寄付金を納めている。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 公園の清掃、草取り、小学校の運動会などに参加している。今年は参加できなかったが、次回の地域の祭りに参加を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 各ユニットの自己評価は3人のリーダーが行っており、職員は自己評価には取り組んでいない。 <input type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 改善点については施設長が改善計画を立てて取り組んでいる。「鍵を掛けない」取り組みについては玄関の一部は改善されているが他はできていない。	○	サービス評価の意義やねらいについては職員も含めて理解しているが、全職員で自己評価に取り組んでいないので、全職員参加の取り組みを期待したい。課題の改善については計画を立て順次取り組んでいるが、未だに改善されていない点もあり、今後も継続した取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しているが利用者は参加していない。内容は行事の説明、事業所の現状報告、認知症の勉強会等で、双方向的な会議にはなっていない。 <input type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 課題について口頭で報告しているが記録には残っていない。	○	運営推進会議で評価の課題について報告するだけでなく、事業所の現状分析、課題の改善等について双方向の話し合いを持ち、課題の改善に取り組むことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 市町村とは認定調査及び報告物提出について関わりがあるのみで日常的な交流はない。	○	市町村に積極的に出向き、グループホームの実情、考え方、取り組み等について伝えたり相談したりすることにより、地域密着型サービスとしてのグループホームの事業を市町村と連携して進めていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 家族の来訪時には声を掛け、来られない家族等には電話をかけて話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 月1回、事業所で新聞を作り、家族と運営推進会議に配布している。また、各フロアで発行頻度に差はあるものの、利用者の状況を手紙で知らせている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 受診や心身の状況等の変化はその都度必ず報告している。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 金銭出納帳等は家族に明示し、毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 苦情や意見を聞くことを目的に、3ヶ月に1回ユニットごとに家族会を開催している。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 家族会のほかに、スタッフルームで個別に意見や要望を聞きサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 管理者や職員の離職が多く、ユニット間での異動もあり、馴染みの職員が継続的に支える体制とは言い難い。 <input type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 離職の場合の引継ぎ期間は1ヶ月取ることにしているが、直ぐに退職する職員もいる。	○	グループホームが提供するサービスの質の確保のためにも、利用者や職員の馴染みの関係の大切さを認識し、職員や管理者の異動や離職を最小限に抑える努力をするよう期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 研修は、公休日の自主的参加となっている。研修の情報提供も少ない。 <input type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 参加した職員が資料を回したり、ミーティングやカンファレンスで発表することはあるが、研修報告書は作っていない。	○	グループホームのサービスの質は職員の質によって成り立つことを認識し、職員に合わせた研修計画を立てて研修の機会を確保するほか、研修情報を提供するなど、職員を育てる取組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 管理者が参加し交流している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 ケアマネジャーからの情報提供が多いが、家族からは口頭や電話で心身の状況や生活歴等の聞き取りをし、かかりつけ医からは家族から連絡してもらって病歴についてサマリーをもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 希望があれば見学してもらっており、本人や家族が訪問できない場合は、事業所から出かけて説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 管理者、リーダー長、ケアマネジャーが複数で面接している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 利用者がグループホーム内で喫茶店を開き他の利用者に利用してもらったり、下膳等利用者ができることはしてもらうなど、支援されるのみの立場には置いていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 利用者からの何気ない言葉掛けに癒されたり、利用者が出来ることを大切にしてクリスマスの飾り付けと一緒に作ったり、お互いが支えあう関係を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 昔の話、ことわざやクイズ、野菜の作付け、調理方法など、利用者から教えてもらうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 声かけをして本人から直接聞き取り、希望や意向の把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族から今までの生活歴などを頼りに情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 本人や家族からの意見を聞き、本部が作成したアセスメント表を使用して介護計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 ユニットごとに、月1回のケアカンファレンスで意見を出し合っている。職員の気付きも記録に残すように取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月の介護計画を立てている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 状態に変化があった場合や退院後には計画を見直している。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 3ヶ月の見直し期間にとらわれず変化に応じた見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 訪問看護と週1回の協力医療機関の往診がある。協力医療機関は隣接しており、医療処置を受けながらの生活が継続できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 今までに看取りをした利用者が1名おり、本人と家族の希望があれば重度化した場合や終末期のケアも提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 かかりつけ医の受診や、ふるさと訪問等に職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 協力医療機関を強制することは無く、希望する病院での受診を支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 定期の往診報告書は職員が記入し、通院の場合も職員が同行しているので、通院介助報告を作成し職員間で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 <input type="checkbox"/> 口頭で説明し話し合っているが、終末期の指針及び同意書は無い。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 協力医療機関、訪問看護との連携ができており、利用者と家族の意向に沿った取り組みができる。	○	重度化や終末期に対応できる体制及び取組みはできているが、終末期の対応指針、同意書、意思確認書などが無いので作成することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 年配者として尊敬の念を持って接し、あからさまに「トイレ」という言葉で誘導しないなど特に言葉遣いには気を配っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関することを話さないことを徹底している。 家族と話す場合には、スタッフルームで話し、利用者のプライバシーには気をつけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 本人の嗜好物、孫へのプレゼントなどの買い物、利用者の希望があれば月2~3回のドライブ、車椅子の利用者も毎日散歩に出かけるなど、その人に応じた柔軟な支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 基本的に利用者の希望に合わせて行っており、どうしても都合が付かない場合は、本人に話して次の日にずらしてもらうこともある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 献立は本部から献立表が送られてくるが、月2回はグループホーム独自の献立を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べてい		
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 1時から4時までは利用者の希望で自由に入浴してもらっているが、各ユニットの夜勤が1名体制のため、夜間入浴は夜8時までの対応となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 週2~3回入浴しているが、入浴を拒否する利用者には時間を置いて声を掛けたり、声掛けの上手な職員が対応したりして、タイミングを見たりコミュニケーションを図りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 家族からの聞き取りや本人の生活歴、アセスメントなどで把握している。のんびり過ごすことを希望する利用者には本人の意向を大切にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 布の裁断、新聞折り、芋の茎の皮むきなどの調理の下準備、食器洗いなど、利用者ができることに応じて役割分担をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 花や肥料を買う時に一緒に出かけて選んだり、食事の時には下ごしらえや食器並べなど声掛けをして働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 午前中の日課である散歩だけでなく、行きつけの美容院や喫茶店、スーパーにも出かけ、ふるさとの住み慣れた場所にも出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 車椅子利用者が8名いるが、ユニットごとに月1回外食したり戸外に出るようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 散歩や買い物は利用者が希望すれば職員が対応し、黒潮本陣、菊花展、宇佐の海岸、道の駅など遠出のドライブも月3回程度している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 基本的にオープンにしているが、2階の階段のドアには鍵がかかり、エレベーターのボタンは花等で隠して押せないようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 利用者の傾向は把握しており、徘徊する利用者が1名いるが、状態が不安定になった時は一緒に出て落ち着かせている。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 今までに一人で外に出た利用者はいない。近所の住民、消防署、警察署には事前に挨拶している。	○	2階と3階の利用者は、階段やエレベーターの利用が危ないということで、鍵をかけたり、エレベーターの使用ができにくいようにしている。鍵をかけるということが利用者、家族、地域の人達にどういった心理的な不安や印象を与えるかを認識し、日中は鍵を掛けずに支援していく努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的実施している。 平成19年は消防署が参加し3回避難訓練等を実施している。その中で、災害時には遠くの避難所よりグループホームの3階の方がより安全であるとの指摘を消防署から受けている。夜間訓練の希望もあるが、地域住民の参加、協力を得た訓練は実施していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 非常用の水と食料は各ユニットごとに台所に保管している。	○	グループホームの利用者には車椅子を利用している人が多く、災害時にはグループホームの職員のみでは対応できない。いざという時に地域住民の協力を得られるように、日頃から避難訓練等に参加してもらうなどの取組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 チェック表をつけて把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 本部から栄養バランスを考慮した献立表が送られてくるが、月2回グループホームで自由に献立をつくることができるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 本部の栄養士が専門的な観点から献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 共用部分にコタツやソファが置かれ、本や新聞などが手に届くところにあるなど、暖かい雰囲気の間となつている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 クリスマスを迎えるための飾り付けの中に利用者が一緒に作ったものもあり、写真も程よく飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出している。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 玄関は生け花やプランターで季節の花を飾り、各階の入り口はクリスマスの装飾や花などを配して季節感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 居室の洗面台とエアコンはグループホームの備え付けだが、ベッド、タンス、鏡台、ソファ、時計などは利用者に合わせて置かれ、清潔感にあふれた部屋となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 利用者が居心地よく過ごせるように明るい清潔な部屋作りに取り組んでいる。		